



知識じゃない 感じて考えて学んだ修学旅行

校長 大谷 京司

11月10日(木)～12日(土)に6年生と共に宮城・岩手県の修学旅行に行ってきました。詳しい内容は6年生から改めて在校生及び保護者に報告会がありますが、6年生の児童にとっては震災、特に津波の恐怖は想像をはるかに上回るものだったようです。

子どもたちが生まれた年に起きた東日本大震災。子どもたちが考えた今回の旅行ルートでは、いろいろな立場の方から当時のことが昨日のこのように語られました。当時、行政の防災担当としてハザードマップの作成に関わり、避難場所に指定していたところで多くの犠牲者を出してしまった痛みを抱えながら思いを伝える方。仲間の犠牲もありながら、必死に生存者の確認と被災者の救援に向かった方。地元民の願いであり復興の象徴である三陸鉄道の運転再開に多方面から援助を仰ぎ尽力した方。

波に飲まれながらも「生きたい」という一心で流れてきた車のタイヤにしがみついて一命をとりとめた方。震災後、数日間家族と連絡が取れない中で、それぞれが生きるために必死だった思いを語る方など。机上で得る知識からでは到底理解しがたい心の叫びを伺ったような気持ちになりました。



■6年生児童からお世話になった方々へのお礼の手紙より(一部抜粋)

- ハザードマップは想定を超えることもあることを理解しておき、いち早く避難しようと思いました。
- 「人は生きたいと思えば生きる事ができる」とおかみさんが言った言葉が頭の中に残りました。
- 被害の様子、復興の様子について、浅いところは知っていましたが、実際に話を聞いてみると鉄道運営の大変さを知り、復興を成し遂げるには協力が必要だと気づけました。
- 一番心に残ったのは、防災センターという名前がついた施設で多くの方が亡くなってしまったことです。津波は想像を超えると知り、とても勉強になりました。

稲の脱穀 大豆の収穫・脱穀

11月1日(火)、2週間程前の稲刈り後にはさ掛けしておいた稲を脱穀しました。

機械の脱穀機の他、子どもたちは郷土博物館からお借りした千歯こきや足踏み脱穀機も体験しました。今年は約200kgのもち米を収穫することができました。12月3日(土)には臼と杵で餅つきを行い、みんなで美味しくいただく予定です。

大豆も収穫期を迎え、葉が落ちて茶色くなった大豆を根から引き抜いて、しばらくの間、天日干しにしました。

その後、たらいの上で棒で叩いてさやから豆を落とす体験を交えながら、機械の脱穀機にかけていきました。今年は、まだ葉を落としていない大豆もあり、2段階に分けて脱穀を行います。



自分たちで作ったお味噌が給食に！



を行う予定です。

昨年度、津久井在来の大豆を播種から収穫、脱穀まで行い、その後、地域の方にご指導いただき味噌を作りましたが、いよいよその熟成された味噌を味噌汁として給食に出すことができるようになりました。初回の具には、幼稚園や初等学校でとれたサツマイモやシイタケなども入り、調理員さんたちも腕によりをかけて美味しくて栄養満点の給食を作ってくれました。これからの味噌汁やお味噌料理も楽しみです。今年度も豆腐作りや味噌作り

宇宙をテーマに遠足へ

11月22日(火)、横浜の「こども自然公園」と「はまぎんこども宇宙科学館」へ遠足に行って来ました。公園では、小春日和の中、紅葉を見ながら散策したり、アスレチックで楽しんだり、小動物と触れあったりしてのんびりと秋の自然を感じることができました。

こども宇宙科学館では、宇宙トレーニング室が人気で、特に月面での重力を感じられる「月面ジャンプ」と宇宙船を操作するような気分になる「空間移動ユニット」に行列ができていました。



お知らせ

11月28日(月)に予定しておりました、「古田貴之さん(千葉工業大学未来ロボット技術研究センター所長)から学ぼう」は、ご本人の発熱による体調不良ということで当日朝中止となりました。今後については未定です。